

# 令和8年度島根県公立高等学校入学者選抜一般選抜学力検査について

## 1 学力検査結果の概要

本概要は、令和8年3月4日に実施した学力検査における受検生の解答と得点状況を総括し、受検生の学力の傾向を示している。なお、過去の平均点や得点状況のデータも参考として掲載しているが、年度により問題の内容が異なるため、単純に経年比較することはできない。

### 【全般】

本検査は、中学校学習指導要領に沿って、日頃の学習で積み上げられた基礎学力を測るものであるとともに、問題作成にあたっては、知識及び技能に加えて、思考力、判断力、表現力等を問う問題を重視した。

学力検査結果全般から読み取れる学力の傾向は次のとおりである。

- ①基礎的・基本的な事項については概ね定着している。
- ②文章や図表を正確に読み取ったうえで何が問われているかを正確に把握し、複数の知識及び技能を相互に関連付けて活用する力や、適切に表現する力に課題がある。

### 【国語】

知識及び技能に関しては、漢字の読み問題の正答率が高く、基本的な知識が定着している様子がうかがえる。思考力、判断力、表現力等のうち「読むこと」では、複数の文章から適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味を読み取ったりすることを苦手とする傾向が見られた。「書くこと」では、目的に応じて複数の資料を適切に引用し、意見文を書く問いを出題したが、条件を満たしつつ指定の字数でまとめた意見を述べることのできた答案が少なかった。内容を検討し、的確に記述する力が不十分であると考え。ただ、過去3年と比べて問題全体の無解答率は減少しており、粘り強く解答しようとする様子がうかがえた。論理的に考え、情報を整理しながら適切に表現する力の育成が望まれる。

### 【社会】

基礎的・基本的な事項を問う問題については正答率が比較的高いことから、三分野それぞれについての基礎的・基本的な知識及び技能は概ね身に付いていると考えられる。一方、複数の資料を関連付けて考える問題や、考えたことを決められた字数内で表現する問題については正答率が低かった。習得した概念的知識や資料活用の技能を用いて、社会的事象を多面的・多角的に考察し、考えたことや判断したことを定められた条件のもとで適切に表現する力の育成が望まれる。

## 【数学】

基礎的・基本的な知識及び技能の定着は概ね良好である。全体として無解答率が低く、粘り強く取り組む姿勢が見られる。また、具体例から規則性を見いだそうとするなど、数学的な見方・考え方を働かせている状況もうかがえる。一方で、事象を論理的に考察し文字式を用いて説明する問題や、複数領域を融合させた問題の正答率は低かった。今後は、数学的な表現を用いて思考過程を論理的に説明する力や、既習事項を統合的・発展的に活用して課題を解決する力の育成が求められる。

## 【理科】

全般的に知識及び技能を問う問題は、正答率が高く無解答率が低いことから、基礎的・基本的な事項はよく身に付いているといえる。一方、思考力、判断力、表現力等を問う問題は、特に観察・実験の結果を正しく読み取り考察して解答を導く問題で正答率が低く無解答率が高かった。探究の過程を通して、理科の見方・考え方を働かせながら習得した知識や技能をもとに、観察・実験等の結果を論理的に考察したり、導き出した考えを正しく説明したりする力の育成が望まれる。

## 【英語】

必要な情報を聞き取ったり読み取ったりする問題では、英文の中に解答と直結する表現がある問題の正答率は概ね高かった。一方で、複数の情報を組み合わせて判断する問題では総じて正答率が低かった。また、会話の流れや場面設定を的確に把握した上で表現する問題では、つながりが不自然であったり、条件に合わなかったりする解答が多く見られたほか、無解答率も高かった。目的や場面、状況などを設定した幅広い言語活動の中で、自由に使える語彙を定着させながら、複数の技能を効果的に統合して活用する力の育成が望まれる。

## 2 学力検査得点状況について

### (1) 平均点・標準偏差

年度 教科	令和8年度		令和7年度		令和6年度	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
国語	26.5	6.9	25.4	7.6	28.5	8.8
社会	26.6	8.5	26.9	9.4	27.4	9.6
数学	25.5	10.8	22.1	10.2	26.8	10.9
理科	25.5	9.8	25.2	9.6	25.2	9.5
英語	20.7	11.9	25.8	11.7	27.3	11.6
総得点	124.6	42.6	125.3	43.1	135.1	45.6

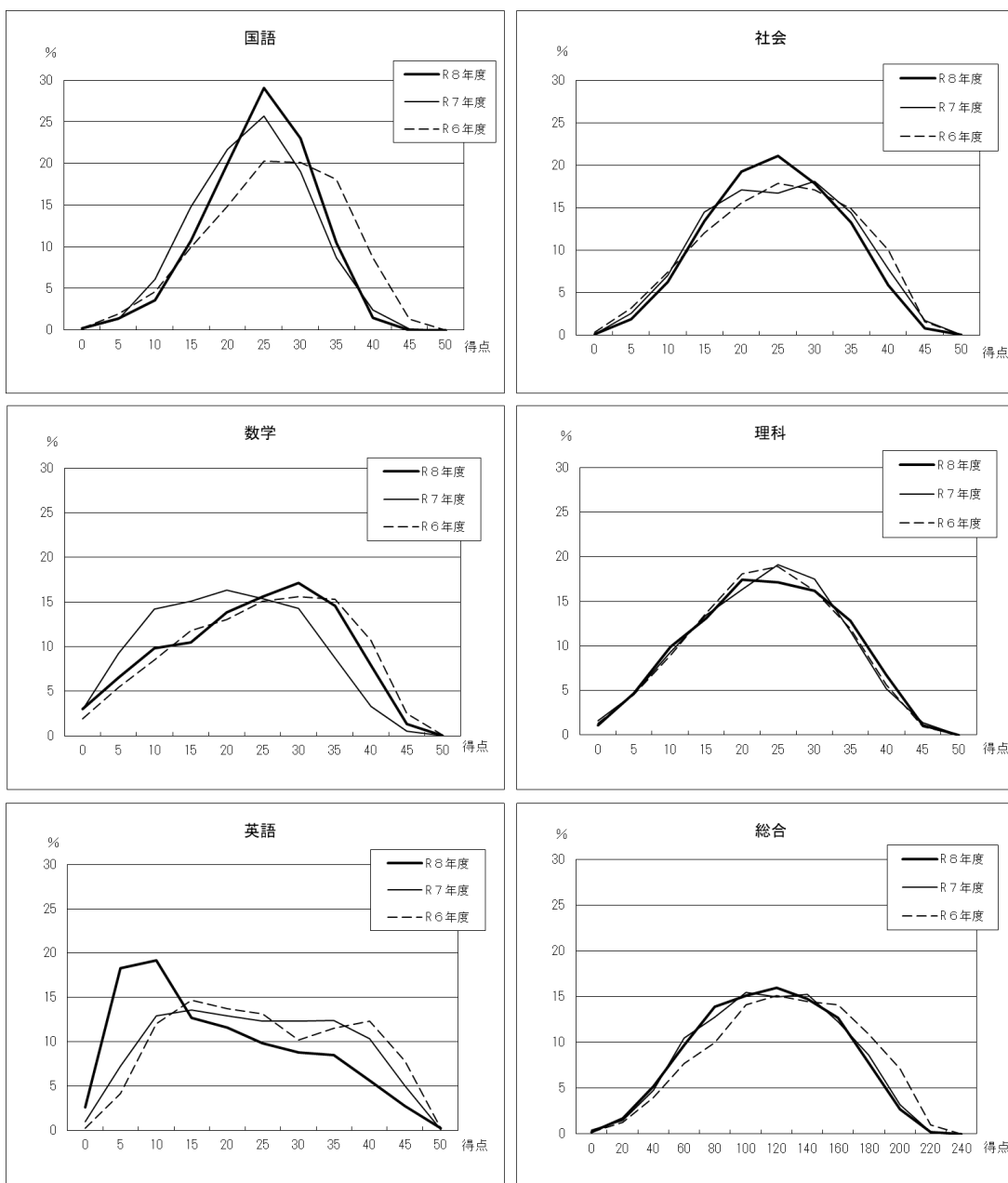
※各教科50点満点、総得点250点満点

※標準偏差…得点の散らばり具合を数値で表したものの、大きい値であれば幅広い得点分布となり、小さい値であれば平均点付近に集中した分布となる。

(2) 総得点分布

年度 得点	令和8年度		令和7年度		令和6年度	
	人数	%	人数	%	人数	%
220点以上	6	0.2%	5	0.2%	35	1.0%
200～219	66	2.7%	82	3.2%	246	7.1%
180～199	191	7.8%	223	8.6%	378	10.9%
160～179	312	12.7%	318	12.3%	486	14.1%
140～159	364	14.9%	397	15.4%	500	14.5%
120～139	393	16.0%	389	15.0%	523	15.1%
100～119	371	15.1%	401	15.5%	487	14.1%
80～99	340	13.9%	331	12.8%	346	10.0%
60～79	237	9.7%	271	10.5%	267	7.7%
60未満	169	6.9%	168	6.5%	191	5.5%
計	2449		2585		3459	

(3) 得点分布



(4) 各教科を担当する教員の学力検査に対する意識調査結果

(中学校等 95校 高校 39校)

教科	校種	内容の程度			問題の分量		
		もっと下げる	ほぼ適当	もっと上げる	多い	ほぼ適当	少ない
国語	中学校	8.4%	86.3%	5.3%	18.9%	81.1%	0.0%
	高校	28.2%	71.8%	0.0%	48.7%	51.3%	0.0%
社会	中学校	3.2%	86.3%	10.5%	1.1%	94.7%	4.2%
	高校	5.1%	92.3%	2.6%	0.0%	100.0%	0.0%
数学	中学校	3.2%	84.2%	12.6%	4.2%	95.8%	0.0%
	高校	5.1%	94.9%	0.0%	5.1%	94.9%	0.0%
理科	中学校	0.0%	87.4%	12.6%	1.1%	98.9%	0.0%
	高校	10.3%	89.7%	0.0%	2.6%	97.4%	0.0%
英語	中学校	4.2%	91.6%	4.2%	11.6%	87.4%	1.0%
	高校	23.1%	76.9%	0.0%	20.5%	79.5%	0.0%

3 今後の予定

6月に、「令和8年度島根県公立高等学校入学者選抜の結果と分析」を作成し、県内中学校、高等学校等へ周知する。